

今週のメニュー

■トピックス

◇Vinyl Sustainability Forum 2023 (VSF2023)に出席

■随想

◇新しい時代、テレワークの定着に向けて

サイバー大学客員教授 三吉 正芳

■トピックス

◇Vinyl Sustainability Forum 2023 (VSF2023)に出席

5月11日(木)に、イタリア フィレンツェで開催された Vinyl Sustainability Forum 2023 (略称 VSF2023)に出席しました。VSF は、欧州の業界団体である VinylPlus®が主催するフォーラムです。今回のメルマガでは、VSF2023 のトピックスを報告します。

今回の VSF2023 は、新型コロナウイルス感染症の世界的流行の影響により、完全な対面方式での開催は4年振りとなりました(2020年、2022年はオンライン、2021年はハイブリット開催)。会場には、EU加盟国、英国、米国、ブラジル、ASEAN、台湾、日本の業界団体、PVCメーカー、行政関係者、学術関係者等、162名の参加者が集まりました。



VSF2023 会場

フォーラム当日は、まずオープニングにて VinylPlus®の2030年のコミットメントとしてPVCリサイクル量やCO2排出削減量の目標が示され、その達成に向けた協力要請がありました。引き続き、「Materials for Sustainability」、「Circularity in construction」、「The future of green public procurement in Europe」の3つのセッションが行われ、各セッションで2~4つの講演とスピーカーによるパネルディスカッションが行われました。その中で、最も印象に残ったことを記載します。

セッション1の中で、欧州化学機関(ECHA)のリスクマネジメント部門の方の講演がありました。現在、ECHAでは、欧州委員会(EUコミッション)の指示に基づき、PVC及び可塑剤に関するリスクの調査が行われています。その中で、PVC及び可塑剤に関する統計や物性等の各種データの提供や、それらの規制の在り方等に関するパブリック・コメントが求められており、VinylPlus®やVECもその対応を行っています。講演を聞くまでは、欧州における将来的なPVCや可塑剤業界をターゲットとした規制強化が前提と考え

しており、PVC業界として憂慮すべき状況と考えていたのですが、講演やパネルディスカッションを通じて、ECHAとしては公正な評価を行う意思を持って調査されていることを感じました。もちろん、PVC業界として今後の動向の注視は必要ですが、こちらにも公正な視点で臨み、ECHAやEUコミッションに正しい判断をしていただければ、調査へ必要な対応をしていくべきと感じました

その他にも、医療用輸液バッグに使用されていた可塑剤の転換対応や、予め廃棄物の削減を想定した建物の設計・建設技術の向上等、PVC業界として社会に貢献できることを幅広く探索し、実際に結果を出していることがよくわかりました。



ヴェッキオ橋

フォーラム終了後は、バスでフィレンツェの街に移動し、ディナータイムとなりました。フィレンツェを含むトスカーナ地方は、歴史的建物・景観を守るためにとても厳しい条例が施行されているようで、その結果、実際にとても美しい街並みが残されており、それらが現在も使用されています。ディナー会場も歴史を感じる建物でしたが、その屋上から見る風景は、大聖堂のドーム型円天井：クーポラを始め、ため息が出る美しさでした。この様に建物・景

観を大切にするためのルールをみんなで守ることができる意識の高さが、欧州のサステナブルな社会の実現のための活動が世界の中で最もすすんでいることにもつながるのかな、と感じました。日本人もルールを守ることができる民族と思っていますので、社会への貢献も十分にできるはず。今後もしサイクルを始め各種取組に精力的に取り組んでいきましょう。



フィレンツェ街並み

◇新しい時代、テレワークの定着に向けて

サイバー大学客員教授 三吉 正芳

コロナ禍も、ようやく収束に向かい、感染症5類（季節性インフルエンザ並み）に5月8日から移行しました。こうしたなかで、企業を取り巻く環境で、在宅勤務が急増し、その対応に追われましたが、多くの企業で定着してきました。

しかしながら、新型コロナウイルスの感染対策や柔軟な働き方で利点がある一方で、対面に比べたコミュニケーションの取りにくさが理由で、従来通りの出社勤務の体制に戻る企業も増えてきています。

ここで、もう一度、在宅勤務が可能なテレワーク活用のメリットについて述べたいと思います。私自身の限られたヒアリング先の事情からですが、こんな事例を直接伺いました。

- ① 郊外戸建てマイホーム購入で通勤時間が片道2時間かかっていた男性の中堅社員は、コロナ対応で週1回の出社になり、往復4時間（通勤）が節約でき、仕事にも集中でき、朝からゆとりのある生活ができるようになった。昼食も自宅で家族と食べることも可能になり、時々、散歩して外食もするようにもして楽しんでいる。17時に仕事が終わることができれば、ウォーキングして、駅前のカフェで読書もできるようになった。ジムにも週2回は通えるようになった。もともと、都市部ではなく、郊外に戸建てを買い、そこで、子供を育てることを考えて行動してきた。ただ、通勤の4時間は体力消耗が年々、厳しくなっていた。だから、コロナ禍は大変なことだったが、勤務体制の変革で、助かっている。現在、企画の立案などがメインの業務だが、営業の同僚も、直行直帰・フレックス勤務をさらに徹底して、やはり、会社での打ち合わせは週1回なので、十分、テレワーク活用でこなせていると言っている。得意先もテレワークに慣れてきていて、直接訪問の回数も減ってきている。もちろん、売上・利益数値は達成中とのことでした。
- ② 女性の専門職（デザイナー）に聞いたところ、週1回・月曜日だけの出社で、あとは、在宅勤務となって、育児に助かっている。この体制が続くことを願っている。今のところ、このままのスタイルで、今後も継続できると言われていて、本当に、この会社に入社でき、嬉しく思っている。ヒアリングを通して、もっと、もっと、売れるように春・秋の新商品販売パンフレットの企画立案に邁進したいとの、意気込みが伝わってきました。有能な人材を確保し、有効に活用している組織の在り方に共鳴しました。
- ③ その他として、介護で助かっている、子供が自然に困まれ、伸び伸びした生活になってきた、両親が大事にしてきた田畑を維持できるようになったなどの声が聞けました。また、私鉄中核駅前にサテライトオフィスが設けられ、これを効果的に活用出来ていることもテレワークの成果として評価しているという方の意見もありました。通勤時間が30分以内になり、自分の時間が増え、朝晩の通勤による体力消耗もな

くなり、自転車通勤にも挑戦中で充実しています、と。

全体的に、企画、営業、システム、広報、CSR、宣伝、法務、開発、監査など、専門性のある部署での、テレワークの有効活用の事例ヒアリングが多かったのですが、テレワーク不採用といった意見をお持ちの経営者、部署長などもおられました。

- ・貨物を扱う仕事なので、現場第1で動く必要から、現場をフォローする事務方もテレワークは採用していないのが方針である。
- ・顧客第1の考え方から、可能な限りの対面コミュニケーションを大事にしたい。それは、社内でも同じで、コロナ禍で大会議室での大勢での会議は自粛したが、個別の都度の打ち合わせは、すぐ傍にいる方が、スムーズに運ぶメリットがある。
- ・「働き方改革」でワークライフバランスの必要性、重要性は痛感しているので、それには残業削減、フレックス有効活用、有給休暇取得、育休の推進などで、対応してきている。それと、全体のテレワーク化というのは、時々、新聞報道で先進事例を見るが、自分としては賛同していない。やはり Face to Face が基本と考える。

インフラがもっと整備され、企業の意識ももっと変化すれば、地方に住んで、首都圏の企業にリモートワークで働くライフスタイルが普及すると考えます。そして、人口分散にも弾みがつくと私は考えていますが、みなさんは如何でしょうか。

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <https://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL info@vec.gr.jp